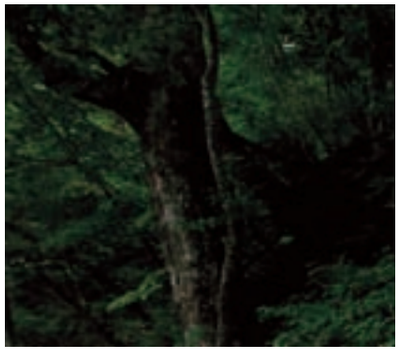
STEP 2 焼き込みツールを使って倒木の周囲を暗く焼き込む

焼き込みツールを選択して、周囲の緑を暗く焼き込んでいく。オプションバーでブラシの大きさを調節して焼き込んでいくのだが、ブラシの「範囲」を「シャドウ」にする。シャドウを選択することで、写真の暗い部分が焼き込まれるようになる。また「露光量」は少なめに設定しておくと、焼き込んだ時のムラができにくくなる。

ブラシの「範囲」は「中間調」で中間範囲のグレーを「ハイライト」で明るい部分の焼き込みが行える。



STEP 3 覆い焼きツールを使って倒木を明るくする

周囲を焼き込むことで倒木が目立ってくるようになるが、さらに「覆い焼きツール」を使って倒木を明るくしていく。覆い焼きも同じように「範囲」を「シャドウ」にし、「露光量」を少なめに設定する。

ブラシのサイズは焼き込みも覆い焼きもはじめは大きめに設定し、おおまかにドラッグをして徐々に細かくしていくといい。

STEP 4 シャープツールを使って倒木にシャープネスをかけていく

倒木の質感をより強調するために、「シャープツール」を使って倒木の部分だけにシャープネスをかけていく。何度も同じ部分をブラシでなぞるとシャープネスが強くなりすぎてしまうので注意しよう。ここでは「強さ」をやや弱めにしてじっくりとシャープネスをかけていくのがポイントだ。

フィルタのシャープは写真全体にかかるが、シャープツールはシャープにしたい部分をピンポイントで選べる。

COLUMN No.18

グラデーションツールを使った「覆い焼き」と「焼き込み」

覆い焼きや焼き込みはそれぞれのツールを使って修整したい場所をなぞっていくだけでできる簡単なレタッチだが、広い面積を修整する場合、写真によってはムラになりやすい。ムラになりにくく自然な感じで仕上げられるのがグラデーションツールを使う方法だ。グラデーションツールを選択し、モードで覆い焼きや焼き込みを選択して、それぞれ効果を出したい場所に線を引くように範囲を決める。ムラになりにくく活用できるレタッチ方法だ。